

研修会・協賛事業実施報告書

令和 8 年 1 月 20 日

研修・協賛事業名	新座ボランティアガイド研修
日時	令和 8 年 1 月 19 日(月) 天候(晴) 9 時 55 分～ 11 時 40 分 所要時間 1 時間 45 分
担当者	尾崎
主催団体等	府中市観光ボランティアの会
行程等	<p>9:55 新座駅 集合</p> <p>10:00 出発 新座市観光ボランティアガイド協会様 5名のガイドの案内にて 4班(3名ずつ)に分かれてガイドいただいた。 新座市ガイド協会の5コースの内、「野火止用水コース」を 新座駅から平林寺前まで案内いただいた。</p> <p>11:40 ガイドツアー解散 その後平林寺へ</p> <p>11:50～12:20 平林寺散策 (10名)</p> <p>12:35～ 蕎麦屋にて昼食</p> <p>13:40頃 解散 新座駅に向かう</p>
参加者	(2)参加者総数 12 名 (会員)
気付いた点、他のボランティアに周知すべき点等	<p>(気付いた点、ボランティアに周知すべき点等)</p> <p>新座市観光ボランティアガイド協会は5つのコースがあり、今回は「野火止用水コース」用水に沿った自然豊かな武蔵野の原風景を思わせる、長閑なコースを用水開削に貢献した、松平伊豆守正綱などの話を伺いながら散策。(新座のガイドは無料)</p> <p>新座市観光ボランティア協会は、高橋理事他約50名が在籍(高齢などで実働は35名程度)。応募は年1回で3～4月の養成講座を受講してガイドになる。府中のガイド教育はOJTと説明。その方が良いかも?とおっしゃっていた。</p> <p>(その他)</p> <p>ガイド研修後、10名で平林寺を散策。広大な境内で40ha(東京ドーム9個)松平伊豆守正綱一族の170基の五輪塔が並んでいるのが目を引く。</p>
配布資料、パンフ等	平林寺の縁起、境内案内(HPより) 新座のガイドから頂いた、「野火止用水の歴史」等は当会のHPに掲載予定
費用等	交通費(府中本町⇄新座 + α)、入山料5,000円(500×10)
収入等	無し

■配布先:リーダー会メンバー、府中観光協会

* 独自に作成した配付資料のデータを送付下さい。会のPCに保存し活用させていただきます。

伽 藍

総門

拝観者を迎える茅葺屋根の堂々たる総門。

山号扁額「金鳳山（きんぼうざん）」、
門柱に「臨済宗平林寺専門道場」を掲げます。
県指定有形文化財（建造物）。



山門

築 350 年の風格を湛える平林寺のシンボルです

江戸時代前期、平林寺が岩槻から移転された際に、
現在の地に移築されました。

県指定有形文化財（建造物）。。



仏殿

脇端正かつ威厳ある佇まいです。

本尊には釈迦如来坐像、
侍には迦葉尊者と阿難尊者を祀ります。
扁額は江戸中期の書家三井親和
（みついしんな）の揮毫です。
県指定有形文化財（建造物）。



中門（なかもん）

総門をそのまま小さくしたような造り。

山門、仏殿、中門の 4 棟は総門から一直線上に
配されています。

県指定有形文化財（建造物）。

非公開、通年閉門。



本堂

本尊の釈迦如来坐像をはじめ、
達磨大師坐像等が祀られています。
現本堂は、江戸末期の火災で庫裡と共に
焼失した旧堂に近い形で、明治期に
再建されたものです。
非公開



戴溪堂（たいけいどう）

日本に書法・篆刻を伝えた独立性易
（どくりゅうしょうえき）禅師を祀ります。
独立禅師は、隠元隆琦（いんげんりゅうき）
禅師と共に第4代将軍徳川家綱謁見のため、
長崎から江戸に随行。その際、当時の老中
松平信綱は独立禅師を厚遇しました。



僧堂門

門柱に「平林僧堂」を掲げます。
通年閉門。



岩槻での開創

平林寺のはじまり

金鳳山平林寺（きんぼうざんへいりんじ）は、永和元年(1375)、今からおよそ 650 年ほど前の南北朝時代、武蔵国（むさしのくに）埼玉郡、現在のさいたま市岩槻区に創建されました。開基は、禅に深く帰依していた大田備州守春桂蘊沢居士（おおたびつちゅうのかみしゅんけいうんたくこじ）、開山には鎌倉建長寺住持で、書や偈頌（げじゅ）に優れていた当代の高僧、石室善玖（せきしつぜんきゅう）禅師が迎えられました。

寺院名の由来

「金鳳山」と名付けられた山号は、かつて石室禅師が元（げん）に渡って修行した、金陵（きんりょう）の鳳台山保寧寺（ほうたいさんほねいじ）に由来しています。また寺号は、寺の伽藍が平坦な林野に見え隠れする様子から「平林寺」とされました。



平林寺開山石室善玖禅師坐像（部分）

戦乱の荒廃から中興へ

鉄山禅師と家康

戦国時代に下り、関東一円は豊臣秀吉による小田原征伐の戦禍を受けます。岩槻にあった平林寺も多くの伽藍を失い、塔頭（たちゅう）のひとつ聯芳軒（れんぼうけん）が辛うじて焼け残る有様でした。

そこへ、関東に領地替えとなった徳川家康が鷹狩に訪れます。途中、家康は休息のために、聯芳軒に立ち寄りしました。軒主から平林寺の由緒を聞いた家康は、平林寺の再興を約束、復興資金と土地を寄進します。更に家康は、かつて駿河臨濟寺にて共に学び、臨濟禅を代表する傑僧となっていた**鉄山宗鈍（てつざんそうどん）** 禅師を、平林寺住持として招聘（しょうへい）しました。

天正 20 年(1592)、平林寺の中興はここに果たされ、平林寺は建長寺派、大徳寺派の系譜を経て、妙心寺派としての新たな歴史を刻んでいきます。



平林寺中興開山鉄山宗鈍禅師（部分）

野火止への移転

中興開基、大河内松平家

家康の関東入部に際し、家臣として三河国（みかわのくに）から共に上京した大河内秀綱（おおこうちひでつな）は、平林寺の大檀那（おおだんな）となって山門や仏殿等の伽藍の再建を行いました。秀綱の孫で、松平家の養子となった松平伊豆守信綱（まつだいらいずのかみのぶつな）も徳川家に仕え、第3代将軍家光、第4代将軍家綱のもとで幕府老中を務めます。

また、信綱は大河内松平家（おおこうちまつだいらけ）を興し、秀綱はじめ、その祖母寿参尼（じゅさんに）、実父大河内久綱、養父松平正綱らを平林寺に篤く弔いました。一族は代々に渡って大河内松平家廟所で供養され、今日に至るまで、平林寺が同家の菩提寺となっています。

水と林の恵み

岩槻にあった平林寺は、寛文3年(1663)信綱の遺命によって野火止（のびとめ）に移転されます。この地には、信綱が開削した玉川上水から分水された野火止用水が流れ、平林寺にも平林寺堀が引かれます。

水の利を得た地域一帯は、新田開発が進むと共に、人々の暮らしを支える雑木林が形成され、江戸近郊の農業都市として発展を遂げていきました。



松平信綱坐像

武蔵野の禅刹

専門道場の開設

専門道場（臨済禅の修行場）である平林僧堂は、明治36年(1903)に開かれました。本山を京都に置く妙心寺派の僧堂は、関西には既に多くありましたが、平林僧堂は名古屋以東に開設された初めての僧堂となりました。以来、関東を代表する妙心寺派の僧堂として、全国各地から集まった僧侶が修行に励んでいます。

修行環境を守る境内林

伽藍を囲むように広がる平林寺境内林は、僧堂における修行環境を守るために保全され、昭和43年(1968)、国の天然記念物に指定されました。現在は、武蔵野の雑木林（ぞうきばやし）の趣（おもむき）を残す貴重な文化財として文化庁、埼玉県、新座市の協力のもと、継続的な整備と管理が行われています。

武蔵野の歴史と文化と共に歩んできた平林寺。13万坪以上にも及ぶ山内（さんない）は、四季折々の雑木林の風情と、開創650余年の古刹の禅風を湛えています。

野火止用水の歴史

徳川家康が江戸城へ入府後50年程たち、江戸の人口増による上水の不足がおり、1653年(承応2)幕府は多摩川から水を引き、水路を掘ることを許しました。これが玉川上水です。

総奉行は老中松平伊豆守信綱、水道奉行は関東郡代伊奈半十郎で、玉川庄右衛門・清右衛門兄弟がこれを請け負いました。

難工事になり、信綱は家臣の安松金右衛門・小島助左衛門に補佐を命じ工事を続行させ、1654年(承応3)完成しました。

信綱は、その功績により関東ローム層の乾燥した台地のため、生活用水にも難渋していた領内の野火止に玉川上水の分水を許され、1655年(承応4)に野火止用水を開削しました。

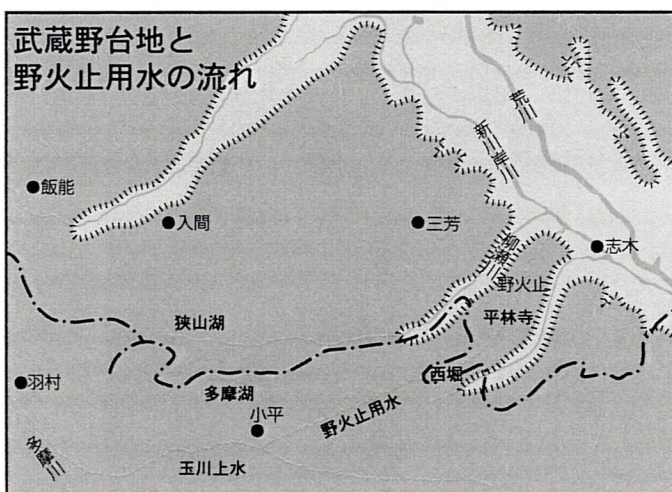
工事担当を安松金右衛門に命じ、費用は三千両を要したといわれています。

現在の東京都小平市から掘りおこし、野火止台地を経て新河岸川に至る全長約24kmにも及び用水路です。

用水路は、素堀りにより開削されていますが、土地の低いところなどには、版築法などにより堤を築いたりして野火止の台地に引水されました。

川越の商人榎本弥左衛門が書いた「萬之覚」によると工事開始は2月10日で、その40日後の3月20日には野火止に水が流れてきたと記されています。

用水の分水割合は、玉川上水7割・野火止用水3割と言われ、主として飲料水や生活用水に使われました。



この野火止用水開削に前後して、川越藩では野火止の耕地を短冊型に区画し農民を入植させ、新しい村(野火止、西堀、菅沢、北野)を創り、さらに周辺他領16か村をはじめ、松平家の一門や家臣まで開発に参加させるという計画的な新田開発を行ないました。

その後、1662年(寛文2)に懸樋により、用水が新河岸川対岸の宗岡(志木市)に引かれ、また、分水が館村(志木市)や宮戸新田(朝霞市)の水田耕作にも使用されるようになりました。

こうして野火止用水は飲料水だけでなく、のちに田用水としても利用されるようになりました。そして豊かな水を得た人々は、この用水に深く感謝し、後世「伊豆殿堀」とも唱えました。

開削以来、野火止の台地と人々の心を、その清らかな流れで野火止用水は潤してきました。

ところが、1949年(昭和24)頃から生活様式が大きく変化し、排水が用水に入って汚染が始まり、飲料水や生活用水としての利用が問題になりました。

特に1963年(昭和38)頃から宅地化が進行し、用水への排水がさかんにおこなわれるようになりました。

それに追い討ちをかけるように、1964年(昭和39)に関東地方が、かんばつに見舞われ、東京が水不足になり野火止用水への分水が中止されました。

しかし、文化的業績のかけがえのない野火止用水をこのまま減ぼしてはいけないと、埼玉県と新座市は「野火止用水復原対策基本計画」を策定し、用水路のしゅんせつや、氾濫防止のための流末処理対策を実施しました。

また、文化財としての保存対策や整備の方法について協議を重ね、新たに「清流対策事業」を実施し、1987年(昭和62)に野火止用水に清流を復活させました。

整備事業完了後、史跡を後世によりよい形で継承し、有効に活用するため、1995年(平成7)「野火止用水管理・活用計画」を策定し、「野火止用水のあるまちづくり」という基本的な考え方のもと、史跡野火止用水の保全・活用を推進しています。

おねがい

野火止用水は大切な文化財です。
用水の中に入ったり、空き缶や
ゴミなど投げ捨てないで下さい。



■松永安左工門・松永耳庵（1875-1971）

長崎県香取生まれ。福沢諭吉の教えに感銘を受け、慶応義塾大学に学びます。その後、鉄道事業の成功を経て電力分野へ進出。「電力力王」「電力の鬼」と呼ばれるほどに改革を断行し、こんにちの日本の電力体制の礎を築きました。



松永安左工門
小田原市郷土文化館提供

60歳から始めた茶道には並ならぬ情熱を注ぎ、松永耳庵の号で近代三茶人のひとりに数えられています。晩年、平林寺の大休老師を訪ねる際は睡足軒で装束を整え、また、この意匠を凝らした草庵に親しい友を招き、耳庵流の茶会に遊びました。

■安左工門と平林寺

安左工門は、平林寺境内の墓所に夫人と並び眠っています。

また、入山者を迎える山門の楼脚には、安左工門が寄進した鎌倉時代の仁王像が納められています。武蔵野の禊祓に深く帰依した、安左工門の生き方、人柄が偲べられます。



松永夫妻の墓



平林寺山門

■アクセスマップ



■開園時間

午前9時～午後3時30分

■休園日

毎週月・水曜日（祝日の場合翌日）

季節休園（夏季・冬季）

■アクセス

西武バス・にいバス「平林寺」下車1分

■駐車場・駐輪場はありません

自転車は平林寺駐輪場をご利用ください

■施設のご利用

睡足軒・紅葉亭は予約利用が可能です（有料）

詳しくは右のQRコード、又は下記までお問い合わせください



■問合せ

新座市教育委員会歴史民俗資料館

〒352-0011 新座市野火止二丁目9番37号

TEL048-481-0177

（歴史民俗資料館休館日以外の8：30～17：15）

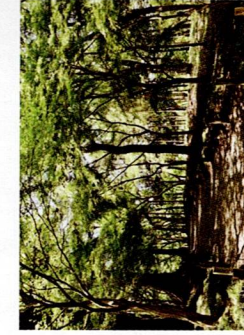
令和6年8月

すいそくけん もり 睡足軒の森

国指定天然記念物
国登録有形文化財（建造物）



■睡足軒の森【国指定天然記念物】



平林寺境内林

睡足軒の森は、正面入口の向かいにある「平林寺境内林」の一部です。江戸時代、この地域一帯には人々のくらしを支える雑木林が広がっていました。手入れの行き届いた雑木林には特有の生態系が育まれ、昭和43年(1968)平林寺境内林は、その影響をとどめる文化財として、国天然記念物の指定を受けました。睡足軒の森は、後年の昭和51年(1976)に追加指定。平成14年(2002)から、一般の方も園内の一部を散策できるようになりました。

■睡足軒【国登録有形文化財(建造物)】

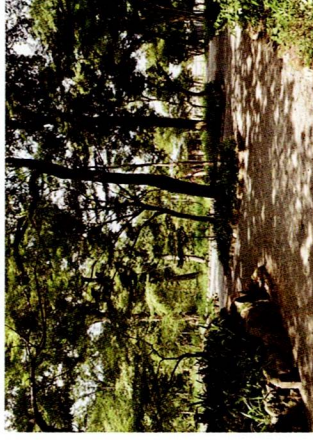


平林寺第21世峰尾大休老師

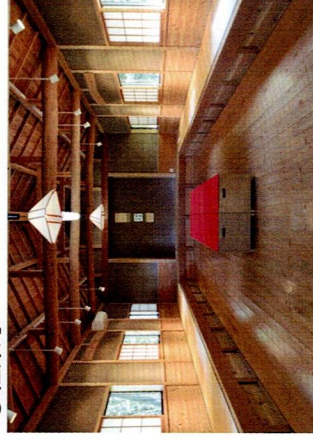
江戸中～後期の飛騨地方の建造物。豪雪地ゆえの工夫が施された民家で簡易な茶室もあります。昭和13年(1938)実業家松永安左工門が、別邸の敷地内に移築。安左工門死後、平林寺が敷地ごと引き受けました。

「睡足軒」とは、もともと平林寺に明治中頃まで存在した別院(塔頭)の名。貴重な古民家の移築にあたり、当時、安左工門と親交の深かった平林寺住職峰尾大休老師が「睡足軒」の名を与えています。

②園内散策路



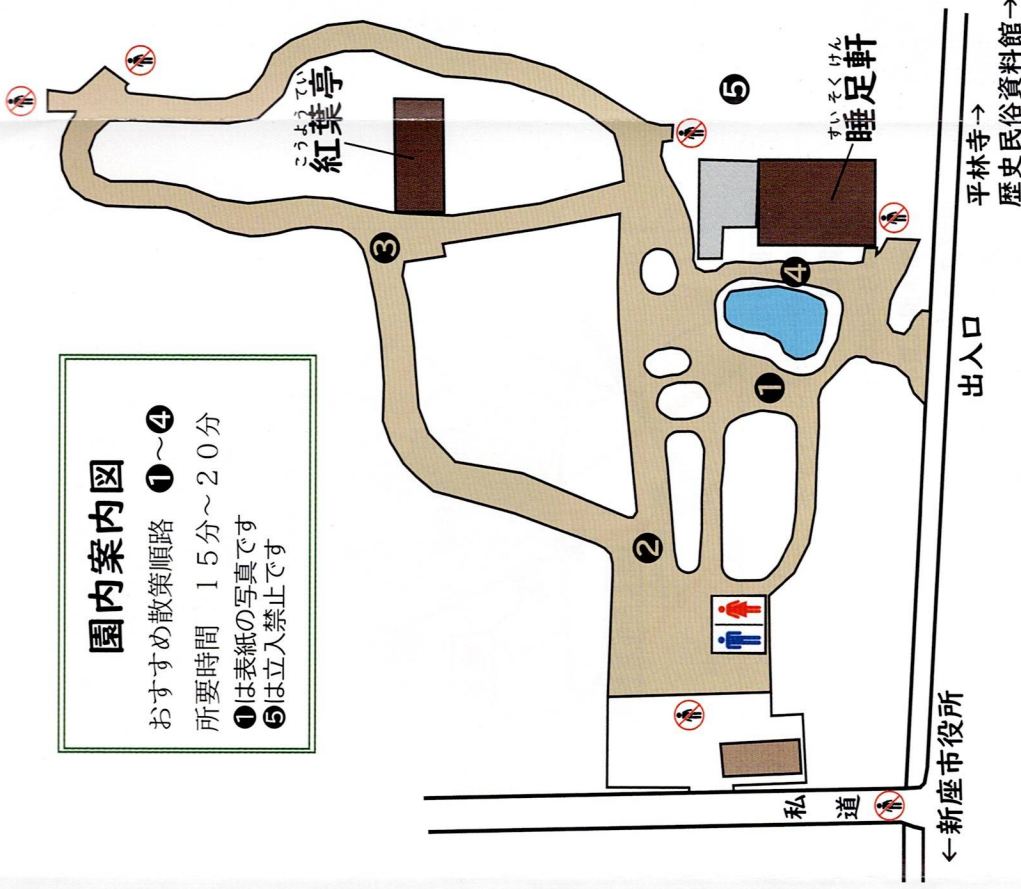
③紅葉亭



④睡足軒屋内(囲炉裏の間)



⑤内庭と睡足軒(立入りはできません)



❌ 次のことは園内では禁止です

- 飲食・敷物・宴会 ● 喫煙 (電子タバコ含) ● ペット入園
- 一脚・三脚・自撮り棒の類の使用 ● 動画撮影 ● 写生
- 集会 ● 鯉の餌やり ● 動植物の採取、持込み

⚠️ **ご注意ください**

○ 立入禁止区域を厳守ください ○ 写真撮影は個人のカメラ・携帯での個人利用目的のみ可 ○ 撮影を目的とした入園はお断りします ○ トイレ使用を目的とした入園はお断りします ○ 散策には落枝、ハチにご注意ください ○ その他、園内のマナーにつき係員より指示・誘導・要請があった場合には従ってください

松永安左工門生誕150周年記念展

新座市制施行55周年事業

松永安左工門(耳庵)年表

西暦(年)	和暦(年)	年齢(歳)	事績
1875	明治8	1	12月1日、長崎県志賀郡(現・志賀市)石田村印通寺浦に生まれる。幼名・竜之助
1882	明治15	8	石田小学校入学
1886	明治19	12	郷之浦武生水第七高等小学校(現・志賀高等学校)入学
1889	明治22	15	1月に慶應義塾入学
1893	明治26	19	父の死去に伴い慶應義塾を休学。家督を継ぎ、三代目安左工門を襲名。家業と土地の整理を行う
1895	明治28	21	家業を弟・英太郎に継ぎ、慶應義塾に復学。福澤諭吉と親近になる
1897	明治30	23	日本勧業銀行の株で儲け、株式売買を開始。慶應義塾に学生自治会を創設
1898	明治31	24	福澤の勧めもあり、4月に慶應義塾を中退(慶應義塾入社時に「三十一年四月高等科卒業」とある)
1899	明治32	25	福澤桃介の勧めにより日本銀行に入行。営業部為替課に配属
1900	明治33	26	日本銀行を退職し、福澤桃介と菊三郎会を開創し、神戸支店長となるが、4か月後に破産閉鎖
1901	明治34	27	ゼネラルローカー・福松商會を設立。独立経営に乗り出し、石炭販売で成功
1904	明治37	30	竹岡力三(依米一子)と結婚
1905	明治38	31	石炭販売の資金で文章の無牌既成紙に乗り出すが失敗。福松商會の上海支店も赤字になる
1907	明治40	33	株式大暴落による打撃に耐え、大砲の自若が火事で大焼。今後は、国家社会へ奉仕するべく行動することを誓う
1908	明治41	34	広滝水力電気の監査役に就任。電力事業に参入する。「一洲」と号す
1909	明治42	35	福博電気軌道を設立し専務に就任
1910	明治43	36	九州電気株式会社設立登記人兼社長として広滝水力電氣と合併契約を締結し、取締役・就任
1911	明治44	37	九州電気常務、博多電燈軌道(博多電燈と福博電気軌道合併)専務就任
1912	明治45	38	博多電燈軌道は九州電氣と合併して九州電燈軌道と改め、常務に就任
1915	大正4	41	母・三又死去
1917	大正6	43	博多商業会議所会頭に就任。福岡市選出衆議院議員に当選
1922	大正11	48	関西電力は九州電燈軌道を合併し、東邦電力となり本社を東京に移転、副社長に就任
1924	大正13	50	超電力連れの提議を基礎とする大日本電機株式会社創立家を発表
1925	大正14	51	電力供給充実による東京の震災復興を企図し、東邦電力の子会社となる東京電力を設立、副社長に就任
1928	昭和3	54	東京電力は東京電燈に合併し、取締役就任。東邦電力社長に就任。山登り、刊行
1929	昭和4	55	埼玉県入間郡柳瀬村(現・所沢市)に柳瀬山荘の運営開始。東北電力を設立し、社長に就任
1931	昭和6	57	五大電力統制に關し「東邦電力松島社長案」を「電氣日報」に発表
1934	昭和9	60	杉山清から東京鐵道開閉の茶会に招かれる(正式に茶事に招かれた職人)
1935	昭和10	61	利山丸より、自動車いっばい分の茶道具を贈られる。弟・英太郎の長男、安太郎と養子縁組をする
1936	昭和11	62	熱海小田原に北山茂丸・福澤桃介・山下重三郎を招き茶事、その茶会に益田純翁(孝)が現れる
1937	昭和12	63	この頃から本格的に茶道を始め「耳庵」と号す。柳瀬山荘に櫻井青山(壽一郎)、原三溪(富太郎)らを招き茶事
1938	昭和13	64	東邦電力など中部地域の7社が共同で出資し中部共同火力発電所を設立し、社長に就任
1939	昭和14	65	柳瀬山荘に小林逸翁(一三)を招き茶事。益田純翁の小田原柳雲台の扇絵の茶会に原三溪とともに招かれる
1940	昭和15	66	以降、純翁の茶会に招かれ、度々小田原を訪れる
1941	昭和16	67	長崎商工会議所主催の座談会の席上で「臣僕は人間のクズだ」発言(長崎事件)
1942	昭和17	68	東邦電力は中電理を合併。東邦電力創立50周年事業の一環で財団法人東邦産業研究所を設立
1943	昭和18	69	電力国家管理案が国会を通過。松永は対象を示し電力の国産化に反対する
1945	昭和20	71	柳瀬山荘春草園に平林寺の大休老師を招く。飛騨地方の田舎家を仰木魯堂の世話で平林寺の前に移築
1946	昭和21	72	大休老師より「睡足」の名を贈る。茶道三年刊行。12月28日益田純翁没。電力管理法が公布
1947	昭和22	73	伊豆老々亭に一日庵を建て、柳瀬山荘に櫻井軒・自在軒(久木庵)が完成
1948	昭和23	74	藤原麗雲(銀次郎)帰朝祝賀の茶会に畠山即翁(一清)らと招かれる。国営の日本発送電株式会社が設立
1949	昭和24	75	近衛文麿首相らにより、大政翼賛会総裁や大政大臣に推挙されるも回辞
1950	昭和25	76	箱根強羅の白雲洞を原家から譲り受け、東邦電力取締役会長に就任。8月16日原三溪没
1951	昭和26	77	東邦電力代表取締役後を辞任し、取締役会長となる。平林寺で近衛と落ち合い、松平伊豆守信綱の墓所を参拝
1953	昭和28	79	反対していた電力事業の国家統制に伴い、東邦電力を解散。第一線から退き、柳瀬山荘での隠遁生活に入る
1955	昭和30	81	柳瀬山荘の建築を始め、小田原市松崎に転居
1956	昭和31	82	松下亨(老樺庄)の建築を始め、小田原市松崎に転居
1958	昭和33	84	小田原市松崎に転居
1959	昭和34	85	松永が「松永記念館」を創設
1961	昭和36	87	財団法人松永記念館設立
1964	昭和39	90	財団法人松永記念館落成
1968	昭和43	94	財団法人松永記念館落成
1971	昭和46	97	財団法人松永記念館落成
1979	昭和54	104	財団法人松永記念館落成

「耳庵・松永安左工門」(小田原市郷土文化館)を改変(年輪は数え年)



はじめに

松永安左工門(耳庵)氏は、近代日本発展の要となった電力の供給に尽力された実業家です。経営的な手腕を發揮する傍ら、日本の伝統的な文化に傾注した人物でもあります。とりわけ、茶道には深い思い入れがあり、彼が愛した抹茶茶碗や茶道具の数々は「松永コレクション」として大切に残されています。新座の睡足軒は、武蔵野をこよなく愛した松永氏が茶室として建てられたもので、新座市との絆を物語るものです。

本書では、松永氏の実業家としての手腕と、茶人としての静の側面を関係資料と共に紹介します。新座市にゆかりのある松永安左工門氏の生き方を知ってもらう一助になれば幸いです。

新座市教育委員会 教育長 金子 廣志

凡 例

- ・ 本書は、令和7年11月1日(土)から12月27日(土)までを会期とし、新座市教育委員会が主催して新座市立歴史民俗資料館(れきしとらう)において開催する市制施行55周年事業「松永安左工門生誕150周年記念展」に際して刊行するものです。
- ・ 本書の構成と展示会場における展示の構成は同一ではありません。
- ・ 本書に掲載しているが、展示していない資料、また展示しているが本書に掲載していない資料があります。
- ・ 安左工門の表記は名施設名、書籍名を踏襲しました。
- ・ 本書の編集は、当館学芸員秋山大海が担当し、川畑隼人が補佐しました。

目 次

第1章	幼少期～学生時代	1
	学生時代～実業家へ	3
第2章	電力事業への進出	5
第3章	茶道との出会い～数寄者・耳庵の誕生～	8
第4章	新座と松永～ゆかりの人物・場所・品々～	10
	(1) 新座と耳庵～平林寺～	11
	(2) 新座と耳庵～睡足軒～	12
	(3) 新座と耳庵～茶道具と書画～	13
	(4) 新座と安左工門～東邦産業研究所と慶應義塾志木高等学校～	13
第5章	晩年の松永～人は信念と共に若く～	14
	(1) 小田原・老樗荘での生活	15
	(2) 電力再編成委員会での活躍	16
	(3) 再編成事業後の活躍	16

第1章 幼少期～学生時代

明治8年(1875)12月1日、長崎県豊岐郡(現・豊岐市)石田村印通寺浦のある廻船問屋に一人の男子が生まれました。幼名、亀之助。父、松永吉太郎(二代目安左工門)、母、ミスの長男で、家族から深い愛情をもて育てられます。彼こそが、後の松永安左工門となる人物です。

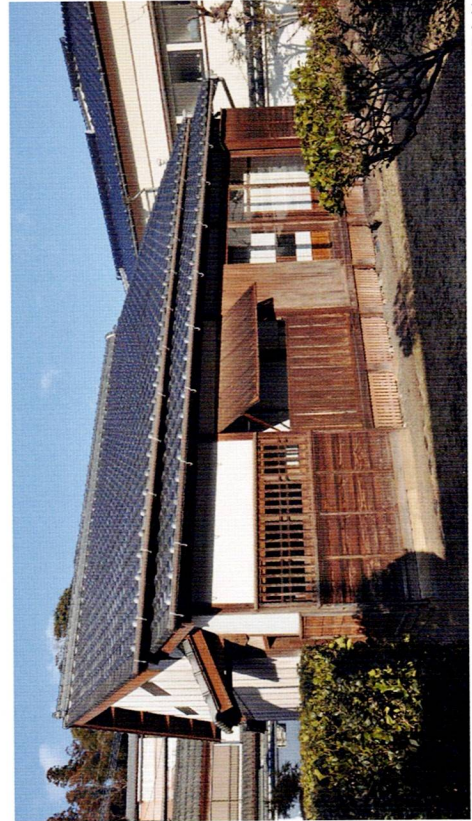
明治19年(1886)、小学校を卒業した亀之助は親戚の家へ寄宿しながら武生水第十七高等小学校(現・豊岐高等学校)へ入学します。明治維新による新しい風は豊岐にも吹き込んでおり、学問をして立身出世することを心掛けるようになったといえます。



母・ミス
豊岐松永安左工門記念館蔵



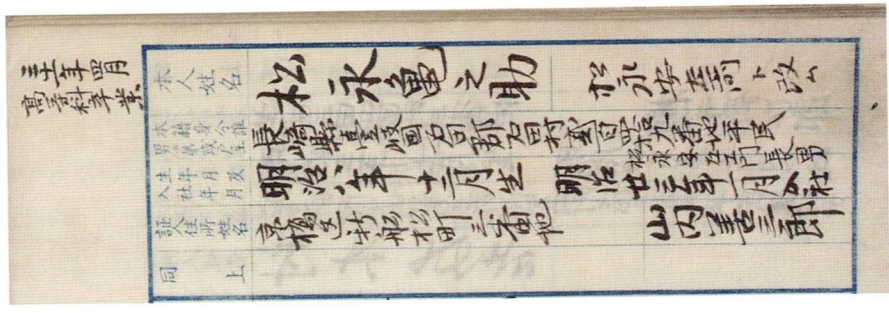
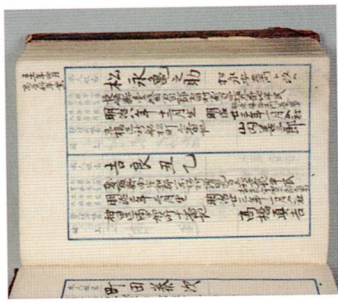
少年時代(左・15歳頃)
松永安左工門翁の懐い出
下巻掲載



松永の家 協力：豊岐松永安左工門記念館

松永に大きな影響を与えた人物として、まず福澤論吉が挙げられます。福澤の著書である『学問のすすめ』に感銘を受けた亀之助は、慶應義塾への進学を志すも、跡取り息子である彼の進学に家族は反対しました。亀之助は進学を認めもらうためにハンガーストライキを遂行、最終的に家族が根負けする形で上京の計しが出ました。

明治23年(1890)、慶應義塾へ入学した亀之助ですが、翌年に流行病のコレラにかかり入院。退院後は一度、高岐へ帰郷することになります。明治24年(1891)に復学するも、2年後に父・二代目安左工門が死去。亀之助は休学して家業を継ぎ、三代目安左工門を襲名することになりました。



慶應義塾入社帳
慶應義塾図書館蔵

第1章 学生時代と実業家へ

高岐に戻って商売をしていた松永ですが、勉学の道を諦めきれません。明治28年(1895)、弟英太郎に家業を継がせ、慶應義塾に再復学します。この時期に、福澤論吉と親近になり、彼の日課であった散歩に同行するようになります。

ここで出会ったのが、福澤の娘婿であった福澤桃介です。松永より8歳上で世間のこともよく知っていた桃介と、松永は経済論の議論を交わしました。後に一緒に会社を立ち上げる桃介は、松永にとってライバルであり、仕事仲間であり、兄のような存在でした。



散歩中の福澤論吉
慶應義塾福澤研究センター蔵



福澤桃介(45歳頃)
慶應義塾福澤研究センター蔵



福澤論吉と卒業生たち(松永は最後列右端、福澤は最前列右から6人目)慶應義塾福澤研究センター蔵

福澤の近くで指導を受けられる機会は貴重なものでしたが、家業に従事した経験は、学校生活を物足りないものに感じさせます。そのことを福澤に相談すると「それなら社会に出て働くのがよい」と勧められたこともあり、松永は卒業を待たずに慶應義塾を中退します。

明治32年(1899)、松永は桃介の勧めで日本銀行に人行しますが、すぐに退職して桃介と丸三商會を起業し実業家としての道を歩み始めます。

次に、明治34年(1901)、わずか4か月ほどで閉鎖した丸三商會に代わり、再び桃介と福松商會を創設して石炭販売を始めました。

明治37年(1904)、竹岡カズ(後の松永一子)と結婚。近代化の進む日本で石炭販売と株式売買で利益をあげ、公私ともに充実していた時期でしたが、明治40年(1907)に株式投資の失敗や大阪に構えた自宅が全焼するなど苦しい時期を迎えます。「学校を出てから(中略)手段・方法を考えずに、金を得ることに邁進し、没頭していた」と、後に松永は人生を転換する時期だったと振り返っています。



松永安左工門(35歳頃)
香岐松永安左工門記念館蔵



明治38年頃の松永夫妻
「松永安左工門翁の思い出」
下巻掲載

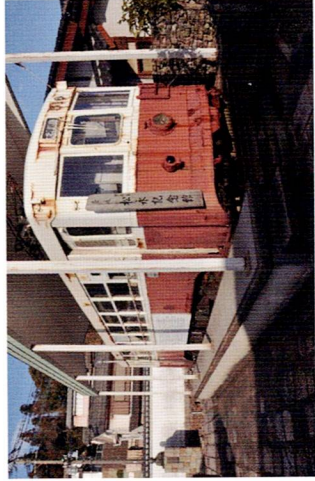
エピソード 最初で最後のサラリーマン生活

桃介の紹介では、日本銀行の総裁秘書の職が用意されているはずでした。松永は意気揚々とモーニングを着込んで出勤しますが、実際の配属先は営業部為替課。松永は、図書館にももって調べ物はかりしていたところでも。日本銀行は一年で退職をすることになります。

第2章 電力事業への進出

明治41年(1908)、松永は桃介とともに広瀬水力電氣に参加。電力事業へ進出します。

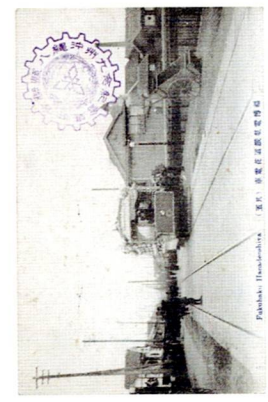
翌年、福博電氣軌道(通称・福博電氣)を設立し、専務取締役に就任。同年から自らが陣頭指揮をとり軌道敷設工事を着工します。この際に、本拠地を福岡県の博多(現在の福岡市)に移しました。博多という場所は、松永にとって「実業人としての発祥の地であり、育ててくれた場所として思い入れがある土地でした。



福博電氣軌道の路面電車 協力：香岐松永安左工門記念館



福博電氣 花電車 西日本鉄道株式会社蔵



福博電氣 花電車稼働時の様子
西日本鉄道株式会社蔵

エピソード 福博電氣の大事な開業式だったけど…

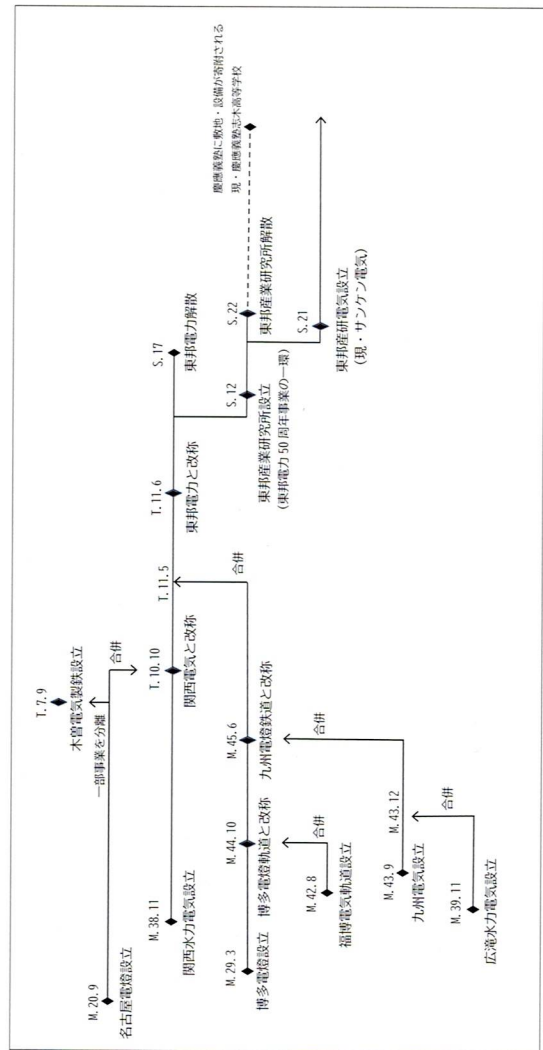
松永が総指揮をとった福博電氣軌道は明治43年(1910)3月9日に開業します。前日は記念すべき開業式でしたが、そこに松永の姿がありません。このとき、慶應義塾の同窓で、阪急電鉄の創業者となる小林三三と共に贈賄容疑で大阪市捜査当局に拘束され、堀川監獄で開業日を迎えることになりました(その後、桃介らの働きかけにより釈放)。これ以降、小林とは実業家としてだけではなく、文化人としても交流を深めることになります。

明治44年(1911)、福博電気軌道は博多電燈と合併し、博多電燈軌道と改称、同45年(1912)には博多電燈軌道が九州電氣と合併し、九州電燈鉄道(現・西日本鉄道株式会社)と改称します。松永は常務に就任し、電力事業により注力していくことになります。

このような合併を繰り返した理由としては、「電気・交通などのサービスを提供する事業は、独占が伴い、先行投資が必要である事業のため、企業はできるだけ集中した形で大きく経営をすべき」という松永の考えが基になっています。

エピソード 政治家・松永安左エ門

福岡での活動によって地元の支持者から推された松永は大正6年(1917)に衆議院議員選挙で当選し、1期だけ政治家としても活躍しました。松永は政治家時代を振り返る際に「議員などというのは、野党でないとおもしろくない。少なくとも私の性に合っている」と述べています。この精神にも恩師である福澤の影響が伺えます。



東邦電力 統合沿革図
※「目庵・松永安左エ門」(小田原市郷土文化館)を改変

九州での事業を軌道に乗せた松永は、大正11年(1922)に九州電燈鉄道と関西電氣を合併して東邦電力を設立し、本社を東京に構えます。東京では、当時の最大電力会社であった東京電燈と「電力闘争」を起こします。

松永は電力闘争に向けた戦略体制を整えるにあたり、東邦電力の子会社・東京電力を設立。東京電力の経営戦略によって工業団体を中心に東京での需要を拡大させました。この闘いは、東京電力と東京電燈の合併という形で終結し、松永は東京電力の取締役と東邦電力の社長に就任します。

東邦電力を国内最大の電力会社へと成長させた松永の活躍は、正に「電力王」と呼ぶにふさわしいものでした。

「電力王」としての地位を築いた松永ですが、昭和初め頃から、軍部の影響力が日増しに強まっています。軍部官僚政治になると戦時体制の構築が進められ、政府は電力の発送電を国が統制管理する方針を発表します。松永は、統制は必要とするも「民有民営」が大前提であるとして、政府のやり方には強く反対しました。しかし、昭和13年(1938)に電力管理法が公布され、翌年には国営の日本発送電株式会社(日発)が設立されます。

昭和15年(1940)、松永は社長を辞めて、第一線を退きます。東邦電力を離れる際、幹部に「日発には一切役員を出すな」と伝えたといえます。

エピソード 「官僚は…」発言

松永は、国の統制管理に反対する中で、軍部の言いなりの官僚を批判しました。そこで出た発言が「官僚は人間のクズだです。これは官庁に頼るのではなく、自主独立を経営者に促すための発言でしたが、官僚の大きな怒りを買ってしまいます。最終的には新聞紙面に謝罪文を掲載して事態を収めることになりました。

第3章 茶道との出会い ～教寄者・耳庵の誕生～

第一線を退いた松永は、埼玉県入間郡柳瀬村(現・所沢市)に造営した柳瀬山荘で隠遁生活を送ります。そこで松永が熟を入れたのが茶道です。

松永が茶道を始めるきっかけには、益田鈍翁や原三溪といった美業家が大きく影響しました。松永は後に、益田・原と共に近代三茶人の一人と目されます。松永が本格的に茶道に傾倒するのは昭和10年(1935)頃からです。この頃に「耳庵」という雅号をつけました。これは、論語の一節六十にして耳に順つを基にしています。

我流の茶道を始めてからの数年は凄まじく、茶道具の購入や茶室の建築をします。松永が蒐集したものは、戦禍を免れ、現在「松永コレクション」として、東京国立博物館や福岡市美術館などで保管されています。



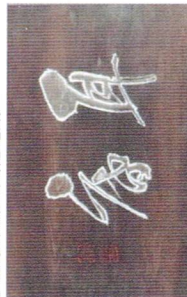
益田鈍翁 三井文庫蔵



原三溪 三溪園蔵



益田鈍翁書「耳庵」
小田原市郷土文化館蔵



木造扁額「耳庵」
言岐松永左エ門記念館蔵



柳瀬山荘での茶会
小田原市郷土文化館蔵

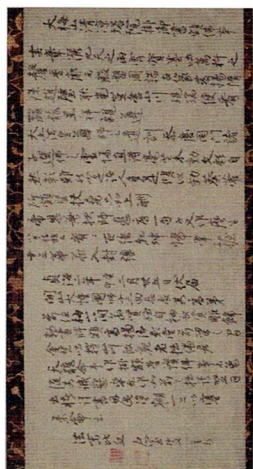


柳瀬山荘 東京国立博物館蔵
(黄林閣(国重要文化財))

ここでは、松永コレクションの一部を紹介します。



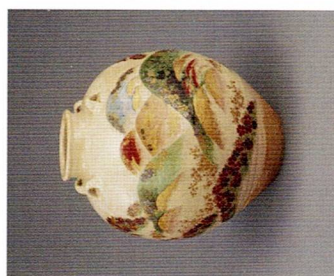
《重要美術品》大井戸茶碗 銘「有楽」 東京国立博物館蔵



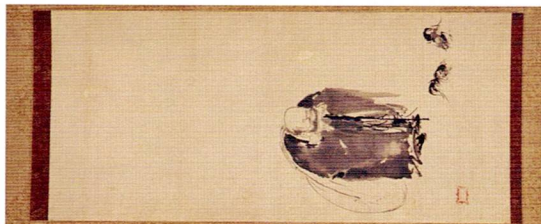
《重要文化財》石室善玖書 法語 東京国立博物館蔵



蒲生氏郷作 竹茶杓 共筒
東京国立博物館蔵



《重要文化財》
野々村仁清作
色絵吉野山図茶壺
福岡市美術館蔵



《重要美術品》
宮本武蔵画
布袋見鶏闘図
福岡市美術館蔵



古銅象目花入 銘「秋月」
東京国立博物館蔵



《重要文化財》
尾形乾山画 花籠図
福岡市美術館蔵

(1) 新座と耳庵 く平林寺く

松永は本格的に茶道を始めてから、わずか3年余りで『茶道三年』という本を出します。参加した茶会に関する記録や松永自身の茶道の考えが記されていますが、この中に平林寺の峰尾大休老師を招いた茶会に関する記述があります。平林寺は永和元年(1375)に岩槻に創建。開山は石室善致禪師で、寛文3年(1663)に現在の野火止に移されました。明治34年(1901)に平林寺住職となった大休老師は、平林僧堂(禪修行の道場)の師家でもあり、妙心寺派管長も務めました。地域住民だけでなく経済人や文化人から慕われ、松永もその一人でした。

大休老師は田島寺で修業をしましたが、大休老師の師匠であった釈宗演老師は、松永と同じ福澤諭吉の教え子でした。福澤を通じたつながりが二人にはあつたのかもしれませんが、松永は平林寺を菩薩寺とし、現在も平林寺境内には松永にゆかりのある建造物や美術品などが残されています。



平林寺山門 画像提供：金鳳山平林寺
岩槻から移築された山門(三門)に松永が寄贈した金剛力士像一対が納められています。



金剛力士像 阿形 画像提供：金鳳山平林寺
金剛力士像 吽形 画像提供：金鳳山平林寺



旧半僧門 画像提供：金鳳山平林寺
淀城の門を移築したと伝わります。現半僧門の建築に先立ち、曳家をして移設されました。



薬師堂(非公開) 画像提供：金鳳山平林寺
元々は高野山の橋本口にあった小堂を睡足居に移築。小田原に移築された後、昭和55年頃に平林寺へ移されました。

(2) 新座と耳庵 く睡足軒く

松永は、昭和13年(1938)に飛騨地方にあつた田倉家を仰木徳堂の世話で移築します。その際に大休老師から老師自身が用いていた号のひとつ「睡足」という名前を賜つたと記しています。当時は「睡足居」として松永がプライベートの茶会を楽しみました。

後に、睡足居とその敷地が平林寺に引き継がれると「睡足軒」と名を変えます。現在は敷地全体が「睡足軒の森」として一般開放されており、睡足軒は文化体験の場として主に利用されています。

睡足軒には飛騨地方の建物の特徴と、松永好みの改築を見ることが出来ます。



睡足軒(国登録有形文化財) 画像提供：金鳳山平林寺
「睡足軒」は明治期まで平林寺にあつた塔頭の名前。「睡足」は中国・唐代の詩人・白居易の「香炉峰の雪」の冒頭から引用したものと推測されます。



十字梁とチヨナナ梁(非公開) 画像提供：金鳳山平林寺
建物の中央をチヨナナ(手倉)梁で十字に組むことで、柱を省略して天井を高くすることができ、より広い空間を確保しています。



股柱(非公開) 画像提供：金鳳山平林寺
二股に分かれた天然木を使用しており、これにより豪雪地帯でも耐えられる強度と天井の高さを両立しています。



殿の痕跡(非公開) 画像提供：金鳳山平林寺
移築前は殿があつたとされます。柱を見ると無数の孔があり、柵をはめ込んだ痕と考えられます。

(4) 新座と安左工門

〈東邦産業研究所と慶應義塾志木高等学校〉

松永は東邦電力を設立して間もなく、本社に臨時調査部を設けて研究をさせます。この調査部が発展し、昭和12年(1937)に財団法人東邦産業研究所となりました。

当時の研究者であった小谷鉄治によると、松永は柳瀬山荘からステッキをつきながら歩いて研究所まで来たといいます。また、研究者やその家族を気にかけてくれたと自著で述べています。

その後、小谷によって昭和21年(1946)に東邦産研電気(現・サンケン電気株式会社)が東邦産業研究所から独立する形で創業します。現在も、松永が創立記念を祝して揮毫した書が残されています。

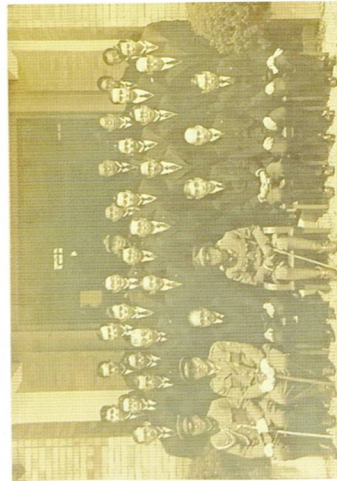
東邦産業研究所は昭和22年(1947)に解散しますが、その際に敷地・設備は慶應義塾へ寄附されました。現在は、慶應義塾志木高等学校となり、校内には松永の銅像が建っています。



松永安左工門書「文明世界不許人間怠慢」(創立10周年記念) サンケン電気株式会社蔵



松永安左工門銅像
協力:慶應義塾志木高等学校



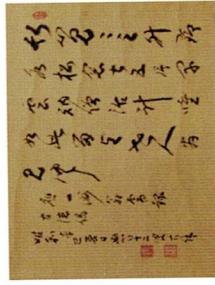
東邦産業研究所 集合写真 香坂松永安左工門記念館蔵



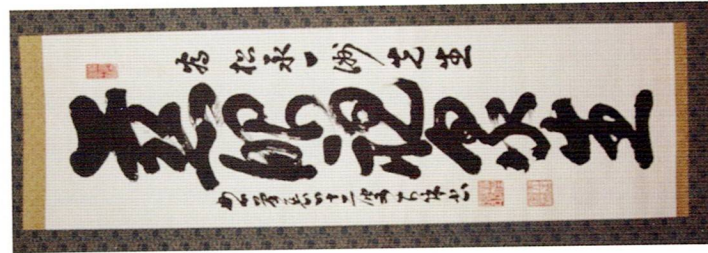
松永目庵作 茶杓 銘「有楽」



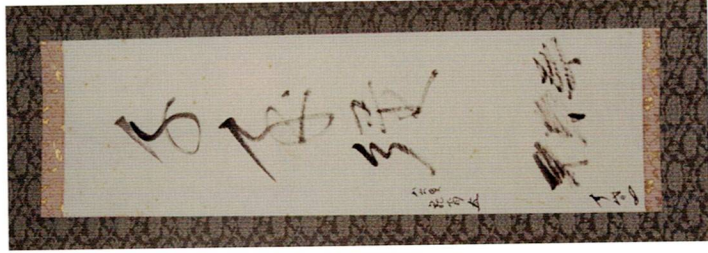
松永目庵作 赤茶碗



大休老師書
〔古徳燭 応需一洲翁〕



大休老師書
〔慈眼視衆生為松永一洲先生〕



益田鈍翁書「千年緑」、
松永目庵画「松樹」合作

(3) 新座と目庵 〈茶道具と書画〉

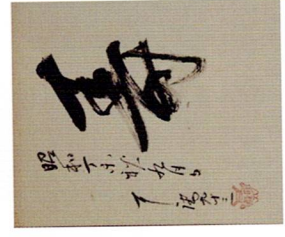
ここでは、新座市内にある松永の資料を紹介합니다。



秋茶碗 目庵銘「朝潮」



松永目庵自画賛
〔高士読書図〕



松永目庵書「寿」(色紙)

(資料は全て個人蔵)

第5章 晩年の松永 く人は信念と共に若く

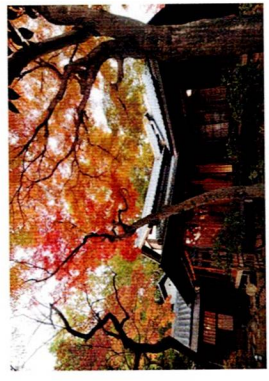
(1) 小田原・老櫓荘での生活

昭和21年(1946)に松永は、小田原市板橋へ転居します。板橋地区は政財界の重鎮に別荘地として好まれており、かつては益田純翁も別邸掃雲台を構えていた場所でした。

大きな櫓の老木のそばに建てられた建物は、20坪程度の母屋のみの簡素な造りでしたが、増改築を経て全体で55坪の居宅となります。松永は、老櫓荘と称されるこの建物で、亡くなるまでの約25年間を過ごしました。

松永は、自身が蒐集したコレクションの保管と一般公開を目的とした財団法人松永記念館を設立します。後に蒐集品の一部と敷地・建物が小田原市に寄附され、現在は、松永記念館(小田原市郷土文化館分館)として開館しています。

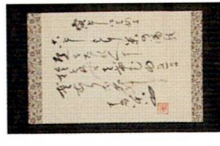
また、小田原での松永を写真家の杉山吉良が撮影しており、晩年の生活が記録されています。



老櫓荘(国登録有形文化財)
小田原市郷土文化館蔵



松永愛用の杖
小田原市郷土文化館蔵



松永耳庵書「寅としによめる」
小田原市郷土文化館蔵



小田原時代の松永
(一刺)日本カメラ財団蔵
／撮影・杉山吉良

エピソード 柳瀬での生活は…

松永は、かねてから小田原で良い場所がないか探していましたが、転居した要因としては一子夫人への気遣いがあります。寒さが厳しい柳瀬での生活は一子夫人には耐えがたいものでした。一子夫人に頻繁に言われたのもありますが、松永自身にも武蔵野の寒さは堪えたのかもしれませんが。

(2) 電力再編成委員会での活躍

公職から離れていた松永ですが、昭和24年(1949)に再び表舞台に立つこととなります。戦後、民主化へ向けた国づくりのため、連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)から電力再編成を要求された吉田茂首相は、電力再編成委員会を発足し、松永を委員長に指名しました。松永は、全国を9ブロックに分割し、発送配電一貫経営の民間会社を設立する案(九電力体制)を提示しますが、日本発送電株式会社の解体を伴う案は、他の委員から反対されます。松永は粘り強く持論を説明し、最終的には委員長私案として提出した案がGHQの理解を得ることにより、松永案が採用されることとなりました。

九電力体制の発定後、公益事業委員会の委員長代理に就いた松永が、最初に行ったのが電気料金の値上げです。世論の反発は強く、マスコミや世間からは電力の鬼と松永を強く非難する声が出ました。松永は電気の値上げは電源開発の資金として必要であるとし、信念を曲げずに値上げを断行しました。これにより安定した電力供給体制が確立され、後年の高度経済成長へとつながっていきます。後にその功績が高く評価され、戦後初の勲一等瑞宝章が授与されました。



公益事業委員会の委員「松永安左エ門翁の思い出」
下巻掲載(松永は左から2人目・昭和25年12月)

エピソード 主婦連合会からの質問に対して…

電気料金の値上げは2回に分けて行われましたが、2回目の値上げの反発は大きいものでした。松永は主婦連合会から値上げの理由を問われた際、電力会社を牛、電気料金を餌に例えて説得をします。電気を牛乳に例えた論説で対派は鎮静しました。

(3) 再編成事業後の活躍

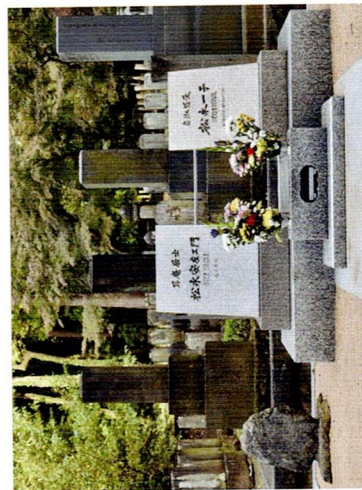
電力再編成事業が完了した後も、松永は精力的に活動します。松永は「八十の青年まだまだ自分でやれる仕事は自分で率先してやりたい」と自著で述べています。

昭和26年(1951)、電気事業共通の研究所として電力技術研究所(現・電力中央研究所)を設立しました。これは再編成事業が完了してからわずか半年後のことでした。

また、将来の日本のためにという信念のもと、財界人を集めた産業計画会議を昭和31年(1956)に設立。16次にも及びロコモーション(勧告)は政府からも注視され、いくつかの提言は実現もされました。



電力施設の現場視察をする松永(一財)日本カメラ財団蔵。撮影:杉山吉良



松永安左門・一子夫人墓 画像提供:金鳳山平林寺

このように最晩年まで現場主義を貫いた松永は、昭和46年(1971)6月16日に慶應義塾大学病院で息を引き取りました。享年96歳。かねてからの遺言に従い、葬儀・法要は行われませんでした。

松永の遺骨は一子夫人が眠る平林寺に納められています(故郷である吉岐にも分骨)。

謝 辞

本書の刊行にあたり、関係各位や諸機関に多大なご協力・ご助言を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。(敬称略、五十音順)

- 【協力者・協力機関】
- 吉岐市教育委員会
- 一般財団法人電力中央研究所
- 一般財団法人日本カメラ財団
- 小田原市教育委員会
- 金鳳山平林寺
- 慶應義塾吉本高等学校
- 慶應義塾図書館
- 慶應義塾福澤研究センター
- 公益財団法人三溪園
- 公益財団法人三井文庫
- サンケン電気株式会社
- 田中潤
- 東京国立博物館
- 西日本鉄道株式会社
- 福岡市美術館

参考文献

- ・浅川博忠『電力会社を九つに割った男・民営化の鬼、松永安左門』(講談社文庫、2000年)
- ・新井豊美子『七十歳からの挑戦・電力の鬼松永安左門』(ブレーン、2011年)
- ・一玄国博物館『松永安左門生誕の地・吉岐・耳庵展』(2020年)
- ・小田原市郷土文化館『耳庵・松永安左門』(2015年)
- ・橋川武郎『生きているうち鬼といわれても』(ミネルヴァ書房、2004年)
- ・小島直記『まかり通る・電力の鬼、松永安左門』(電経経済新報社、2003年)
- ・小倉鎌治『白雲去来』(1977年)
- ・サンケン電気株式会社『サンケンの歩み・半導体と共に』(1981年)
- ・サンケン電気株式会社『サンケン電気50年史』(1998年)
- ・白崎泰雄『耳庵松永安左門上・下巻』(新潮社、1990年)
- ・東京国立博物館『松永安左門コレクション』(2002年)
- ・阪急文化財団逸翁美術館・福岡市美術館『小林三三と松永安左門・茶の湯交遊録 逸翁と耳庵の名品コレクション』(思文閣出版、2013年)
- ・福岡市美術館『松永コレクション』(2000年)
- ・福岡市美術館『没後50年 電力王松永安左門の巻』(2021年)
- ・松坂直美『わが人生は闘争なり!松永安左門の世界』(香椎産業出版部、1980年)
- ・松永安左門『乱世に生きる』(経済往来社、1969年)
- ・松永安左門著作集1-6巻(五月書房、1982-1983年)
- ・松永安左門『松永安左門九十歳病床日記』(経済往来社、1983年)
- ・松永安左門『松永安左門・自叙伝 松永安左門(人間の記録85)』(日本図書センター、1999年)
- ・松永安左門『電力の鬼・松永安左門自伝』(毎日ワーズ、2011年)
- ・水木楊『爽やかなる熱情・電力王・松永安左門の生涯』(日本経済新聞社、2000年)
- ・平林寺公式Webサイト <https://www.heirini.jp>



新座市立歴史民俗資料館(れきしてらす)

〒352-1001 埼玉県新座市野火止二丁目9番37号
電話:048-1481-0177 (新座中学校前新座消防署隣)
表紙裏表紙:一般財団法人日本カメラ財団蔵/撮影:杉山吉良